

令和6年度 ながさき農林業大賞受賞者一覧

3 運営委員会長賞

部門及び区分		氏名・組織名等	市町	経営規模等		地区
1	露地野菜部門 (トップファーマー)	まちだ ゆうき かずひさ 町田 雄輝・一久・かおり・恵子	雲仙市	春ばれいしょ 秋ばれいしょ 種ばれいしょ ミニトマト	230a 230a 59a 17a	島原
2	施設野菜部門 (トップファーマー)	たなか さとし みなみ 田中 智・美波	島原市	ほうれんそう その他	555a 2,014a	島原
3	果樹部門 (トップファーマー)	たきぐち いさむ 瀧口 勇	川棚町	露地みかん ハウスみかん 中晩柑 水稻	209a 36a 30a 70a	県央
4	花き部門 (トップファーマー)	もり としろう ちかこ 森 敏朗・千佳子	諫早市	洋ギク(マム)	66a	県央
5	畜産部門 (トップファーマー)	かぶしきがいしゃ よこた 株式会社 横田ファーム	南島原市	ブロイラー	95,000羽	島原
6	農産部門 (トップファーマー)	のうじくみあいほうじん おのしま 農事組合法人 小野島	諫早市	大豆 大麦 小麦 裸麦	1,870a 2,570a 2,700a 250a	県央
7	特産部門 (トップファーマー)	しらいし かずのり みき 白石 万登・美樹	南島原市	葉たばこ こきび たかな	290a 200a 40a	島原
8	しまの農林業経営部門 (トップファーマー)	くぼ ひるとか 久保 博敬	苓崎市	肉用牛繁殖 水稻・飼料作物 作業受託	12頭 500a 10,800a	苓岐
9	産地集団部門 (いきいきファーム)	しまばらうんぜんたくみ きくせいさんくみあい JA島原雲仙匠の菊生産組合	雲仙市	きく	5.0 ha	島原

4 特別賞

部門及び区分	氏名・組織名等	市町	取組内容
1 特別部門	かぶしきがいしゃ 株式会社ディーソールNSP システムファイブ株式会社	長崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎県や関係団体と連携し、既製品より安価な長崎型低コスト統合環境制御装置を開発したことにより、県内の多くの農家に導入され、本県のスマート農業技術の普及に貢献。 ・ハウス内の環境データの一元集約管理が可能となり、生産者間のデータの比較・分析が容易になったことで、各地域の勉強会組織の立ち上げが進むとともに、指導員の環境制御技術に対する指導力の向上に寄与。また、施設園芸生産者のデータ活用に関する意識が大きく変化し、特に、いちごにおいては単収向上並びに産地の維持拡大にも貢献。

運営委員会長賞

受賞部門：露地野菜部門（トップファーマー）

氏名

まちだ ゆうき まちだ かずひさ
 町田 雄輝 町田 一久
 まちだ かおり まちだ けいこ
 町田 かおり 町田 恵子



市町名 雲仙市

所属団体 ㊦馬铃薯生産組合
 千々石町馬铃薯採種生産組合
 島原雲仙農協西部ミニトマト部会

1 経営の概要

	主品目（ばれいしょ）	その他		合計
作付面積(頭羽数)	春 230a 秋 230a 種 59a	ミニトマト 17a 水稻 59a		595a
単収	春 3,200kg/10a 秋 2,800kg/10a 種 2,800kg/10a	—		—
生産量（販売量）	154.8t	ミニトマト 23.9t 水稻 3.1t	—	
労働時間 (うち雇用時間)	—	—		9,880 時間 (1,400 時間)
家族従事者数	4 人	経営の継続性	経営主が 60 歳以下	
労働条件の整備	家族経営協定締結			
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	抵抗性・耐病性品種の導入、有機質肥料の施用、生産履歴記帳、 資源循環の取組（地域内資源利用）			

2 受賞の理由（特徴的な取組）

(1) 家族4人の労力で、ばれいしょを中心としたミニトマトとの複合経営を行っており、基盤整備事業の活用、省力化機械の導入、ドローン防除を取り入れている。

(2) ばれいしょの単収、品質向上の取組として、抵抗性品種の導入や緑肥作付、堆肥施用、心土破碎による土壌物理性の改善も積極的に実施している。

(3) 経営主である雄輝氏は地区営農組合の組合長、父である一久氏は土地改良区理事長等を務めており、地域リーダーとして地域農業をけん引している。



ばれいしょ培土作業

運営委員会長賞 受賞部門：施設野菜部門（トップファーマー）

氏名

たなか さとし
田中 智

たなか みなみ
田中 美波

市町名 島原市

所属団体 長崎県農業法人協会
JA 島原雲仙島原果菜部会



1 経営の概要

	主品目（ほうれんそう）	その他		合計
作付面積（頭羽数）	555a	その他野菜 2,014a		2,569a
単収	1,266kg/10a	-		-
生産量（販売量）	70.25t	1,421.5t		1,491.7t
労働時間 （うち雇用時間）	15,242時間 (14,785時間)	21,718時間 (14,735時間)		36,960時間 (29,520時間)
家族従事者数	4人	経営の継続性	経営主が60歳以下	
労働条件の整備	家族経営協定締結			
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	赤色防虫ネット、土壌診断に基づく施肥、長崎県版GAP（初心者用）実践、 生産履歴記帳、資源循環の取組（地域内資源の利用）			

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- （1）ほうれんそうを経営の柱とした大規模経営であり、自社ブランドを自社のHP並びにECサイトでの販売やインスタグラムによる情報発信、マルシェ出店により知名度向上を図っている。
- （2）宿舍等を整備し、技能実習生13名を積極的に受け入れ、人材の育成を図るとともに11名を雇用するなど地域雇用の創出に貢献している。
- （3）露地野菜では多数の圃場で複数の品目・作型を組み合わせ、土地生産性の高い農業を実践している。
- （4）研修生や農業体験の受入、耕作放棄地の有効活用など地域農業振興にも貢献している。



ほうれんそうの生育状況確認

運営委員会長賞

受賞部門：果樹部門（トップファーマー）

氏名

たきぐち いさむ
瀧口 勇



市町名 川棚町

所属団体 長崎県央農業協同組合みかん部会
長崎県央農業協同組合ハウスみかん部会
長崎県央農業協同組合みかん部会はなまる研究会

1 経営の概要

	主品目（温州みかん）	その他	合計
作付面積(頭羽数)	露地 209a ハウス 36a	中晩柑 30a 水稻 70a	345a
単収	露地 3,299 kg/10a ハウス 7,404kg/10a	—	—
生産量（販売量）	露地 68,969 kg ハウス 8,885kg	—	—
労働時間 (うち雇用時間)	5,251 時間 (912 時間)	377 時間 (100 時間)	5,628 時間 (1,012 時間)
家族従事者数	3 人	経営の継続性	経営主が 60 歳以下
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	農薬使用低減の取組（UVカットフィルム、防虫ネット）、ヤシ殻資材施用、 生産履歴記帳、資源循環の取組（2 者間連携）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- (1) 家族労力による収穫を行うため、露地みかんに加温・無加温ハウスみかん、中晩柑の栽培体系を組み合わせることで労力の平準化を実現している。
- (2) ハウスみかんは多重被覆空気層生成機器（モンロードーム）を導入して重油使用量を削減し、生産コストを低減している。
- (3) ハウスみかんの単収は 3 か年平均で 7,319 kg/10a と県平均 4,638kg/10a と比較し非常に高い。ハウス内に無駄なく植栽し樹冠拡大させ、適期にせん定、施肥、温度管理等により連年多収生産を実現している。
- (4) JA ながさき県央北部青年部長等に就任し、県央北部地域の担い手代表として活躍している。



みかんの摘果作業

運営委員会会長賞

受賞部門：花き部門（トップファーマー）

氏名

もり としろう
森 敏朗

もり ちかこ
森 千佳子

市町名 諫早市

所属団体 諫早きく生産組合



1 経営の概要

	主品目（花き）	その他	合計
作付面積(頭羽数)	洋ぎく（マム） 66a	—	66a
単収	79,882 本/10a	—	—
生産量（販売量）	527,225 本	—	—
労働時間 （うち雇用時間）	9,754 時間 (4,234 時間)	—	9,754 時間 (4,234 時間)
家族従事者数	3 人	経営の 継続性	経営主が 60 歳以下
労働条件の整備	家族経営協定締結		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	農薬使用低減の取組（太陽熱消毒による土壌消毒の実施、防虫ネット）、 有機物の施用、生産履歴記帳、長崎県版GAP（初心者用）実践、 資源循環の取組（地域内資源の利用）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

(1) 輪ぎく専業経営から、徐々に洋ぎくを導入し、コロナ禍による社会情勢、需要構造の変化に対応するため、洋ぎくのための栽培へ転換を行った。

(2) 輪ぎく栽培で培った技術を生かし、ヒートポンプの活用による燃油使用量の削減、夜冷とシェード栽培との併用により夏場の収量向上、品質向上を実践している。

(3) 全国的組織である OPTIMUM（ディスバッド生産者等で組織）にも加わり勉強会、販売促進、産地間連携の模索など地域を越えた活動にも積極的に参加している。

(4) 諫早きく生産組合長や花き振興協議会キク部会役員等を務め本県花き振興に貢献している。



ディスバッドのフラワーネットつけ

運営委員会会長賞

受賞部門：畜産部門（トップファーマー）

法人名

かぶしきがいしゃ よこた
株式会社 横田ファーム

代表者名 代表取締役 横田 金吾

市町名 南島原市

所属団体 南島原市養鶏協議会



1 経営の概要

	主品目（採卵鶏）	その他	合計
作付面積(頭羽数)	95,000羽	—	95,000羽
単収	—	—	—
生産量（販売量）	430,257羽	—	430,257羽
労働時間 （うち雇用時間）	9,507時間 (6,787時間)	—	9,507時間 (6,787時間)
家族従事者数	1人	経営の継続性	経営主が60歳以下
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	資源循環の取組（地域内資源の供給）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- （1）高いブロイラー飼養技術を有し、床面の敷料切返しを行うなど良好な飼養環境で生産された高品質の鶏は出荷先からも高い評価を得ている。
- （2）ひなの餌つけを長期間「手やり」で行うことで飼料ロスを削減し、良好な飼料要求率を実現している。
- （3）全国のブロイラー生産者の中でも早く10年前にはLED照明に切り替え、鶏舎の監視カメラの導入、地元業者とともに電気系統に異常が発生した際の通知システムを構築するなど、省力化、効率化を実践している。
- （4）南島原市養鶏協議会会長や南島原市認定農業者協議会役員を務めるなど地域のリーダーとして地域農業をけん引している。



鶏舎敷料散布作業

運営委員会長賞

受賞部門：農産部門（トップファーマー）

法人名

のうじくみあいほうじん おのじま
農事組合法人 小野島

代表者名 代表理事 あしづか かずしち
芦塚 和七

市町名 諫早市

所属団体 諫早市認定農業者協議会
J A長崎県央小野種子生産組合



1 経営の概要

	主品目	その他		合計
作付面積(頭羽数)	大豆 1,870a 大麦 2,570a 小麦 2,700a 裸麦 250a	作業受託(防除) 8,500a		作物 7,390a 作業受託 8,500a
単収	大豆 217kg/10a	—		—
生産量(販売量)	大豆 40.6t	—		—
労働時間 (うち雇用時間)	時間 (—時間)	時間 (—時間)		7,440時間 (—時間)
役員数	5人	経営の継続性	法人設立(平成28年)	
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	特別栽培、生産履歴記帳			

2 受賞の理由(特徴的な取組)

- (1) ブロックローテーションによる転作大豆と裏作の麦生産、麦の防除作業を受託する集落営農法人である。
- (2) 大豆の部分浅耕一工程播種技術を1年間試験栽培したのち栽培の全面積で実施したことで、作業の効率化と適期播種が可能となり単収向上を実現している。
- (3) 地域の集落営農法人との生育状況協議による大豆収穫コンバインの共同利用や所有しているブームスプレーヤーを活用した麦の防除作業受託により、地域全体の省力化及び低コスト化に貢献している。



ブームスプレーヤーを活用した大豆防除の様子

運営委員会会長賞

受賞部門：特産部門（トップファーマー）

氏名

白石 万登

白石 美樹

市町名 南島原市

所属団体 西九州たばこ耕作組合島原支所



1 経営の概要

	主品目（葉たばこ）	その他	合計
作付面積(頭羽数)	290a	こきび 200a たかな 40a	530a
単収	290 kg/10a	—	—
生産量（販売量）	8,425 kg	—	—
労働時間 (うち雇用時間)	5,060 時間 (720 時間)	860 時間 (0 時間)	5,920 時間 (720 時間)
家族従事者数	4 人	経営の継続性	経営主が 60 歳以下
労働条件の整備	家族経営協定締結		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	発生予察に基づく適期防除、葉たばこに合わせたたい肥等による土づくり、 生産履歴記帳、たばこ耕作組合 GAP（熟練者用）、 資源循環の取組（地域内資源の利用）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- 高架型作業機（AP-1）や針ラック等の先進的な導入による大幅な省力化、環境負荷低減型乾燥機の導入など、地域の葉たばこ栽培モデルとなっている。
- 技術の特色である自家製の植物性堆肥施用による土づくり、全圃場の明渠排水による立枯病対策等の高度な生産技術を有し、新しく導入された新品種「F80」の特性（省力化効果）把握により、一層の効率化を実現している。



こきびの追肥作業

- 葉たばこを主に雑穀や、たかなとの複合経営を行い、高収益を実現している。特に葉たばこについては、高い生産技術をもとに、県平均と比較して単収、単価ともに非常に高い実績をあげており、令和 5 年度の市町村別葉たばこ販売実績では、南島原市が全国 228 市町村中第 2 位という好成績をあげるなど大いに貢献している。

運営委員会長賞 受賞部門：しまの農林業経営部門（トップファーマー）

氏名

くぼ ひろたか
久保 博敬



市町名 壱岐市

所属団体 あしべ和牛部会

1 経営の概要

	主品目（肉用牛）	その他	合計
作付面積(頭羽数)	繁殖牛 12頭	水稻 300a 飼料作物 200a 作業受託 10,800a	繁殖牛 12頭 作物 500a 作業受託 10,800a
単収	子牛生産率 100%	—	—
生産量（販売量）	出荷子牛 12頭	—	—
労働時間 （うち雇用時間）	687時間 （103時間）	1,313時間 （197時間）	2,000時間 （300時間）
家族従事者数	2人	経営の継続性	—
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	自給飼料生産、生産履歴記帳、資源循環の取組（自己完結）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- 肉用牛繁殖経営において、早期離乳技術による分娩間隔の短縮を図り1年1産を行う高い生産性を実現するとともに、全粗飼料を自給するなどコスト低減を図り、島内の基幹農業である畜産経営の模範となっている。
- 高齢化が急速に進む離島農業において、水稻および飼料生産に関する作業を約60戸（延べ面積108ha）から受託しており、地域の機械導入コスト低減と省力化を担うことで地域農業を下支えしている。
- 堆肥保管庫を整備し地元堆肥センターの堆肥を受け入れ流通させることで、島内の資源循環に貢献している。
- 島内での農作業死亡事故を受けて壱岐地区農業機械士連絡協議会の設立に尽力し、現在会長を務めるほか、数多くの組織の役員に就くなど、地域農業へ模範的に貢献している。



受託作業の様子

運営委員会長賞

受賞部門：産地集団部門（いきいきファーム）

JAしまばらうんぜん
JA島原雲仙

たくみ きくせいさんくみあい
匠の菊生産組合

代表者名 組合長 よしもと 吉本 けいたろう 圭太郎

市町名 雲仙市

発足・設立年 平成7年



1 組織の概要

品目	きく	構成員数 (認定農業者数)	8人 (8人)	産地規模	5.0ha
販売量	3,095 千本	販売額	215,039 千円		
単収	61.9 千本/10a	単価	70 円/本		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- (1) 部会員数8人、1部会員あたりの平均作付規模は62.5aで、県内トップレベルの輪ぎく生産技術を有する組織である。
- (2) 気象災害に強い低コスト耐候性ハウスを導入し安定生産を図るとともに、ヒートポンプによる冬の燃油削減と夏の夜冷栽培技術や炭酸ガス施用による環境制御技術を全国でもいち早く導入し、単収や品質の向上を実現している。
- (3) 省力化品種や高規格施設、各種制御機器をいち早く導入し使いこなすなどパイオニア的な役割を果たし、本県の輪ぎく栽培技術を常にリードしている。



立毛品評会の様子



出荷前検品の様子

特別賞 受賞部門：特別部門

かぶしがいしゃ
株式会社 ディーソル NSP

かぶしがいしゃ
システムファイブ 株式会社

代表者名 代表取締役社長 いまむら いさお 今村 勇雄
(ディーソル NSP)

代表取締役社長 さとう ともゆき 佐藤 知之
(システムファイブ)

市町名 長崎市

設立年 平成 17 年
(ディーソル NSP)

平成 5 年
(システムファイブ)



スマートフォンからハウス内環境確認・管理

システムファイブ

1. 組織の概要

構成員数	(ディーソル NSP) 従業員数 35 名 (システムファイブ) 従業員数 15 名
組織概要	(ディーソル NSP) システム開発 (システムファイブ) ハードウェア開発 ※長崎県低コスト統合環境制御実証コンソーシアムでの取組として活動
活動の経過と概要	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年から「長崎県農商工連携ファンド支援事業」を活用し、システムファイブ(株)が長崎型低コスト統合環境制御装置(以下、「長崎型装置」)の開発に向け、取組を実施。 平成 31 年からシステムファイブ(株)、(株)ディーソル NSP、八江農芸(株)、JA 全農ながさき、長崎県が長崎型装置の開発に向けたコンソーシアムを結成。 令和 2 年から産地による実証を開始。 令和 4 年から県内産地に長崎型装置が県内各地に普及(11 品目 111 台)し、スマート農業技術の普及に貢献。 令和 5 年から長崎型装置によるデータの一元集約、活用が開始され、県域でのデータに基づく環境制御技術の勉強会や技術指導等が本格的に開始された。

2. 受賞の理由

- (1) 長崎県と連携し、既製品より安価な長崎型低コスト統合環境制御装置を開発したことにより、本県農家へ多く導入され、スマート技術の普及に貢献している。
- (2) ハウス内の環境データの一元集約管理が可能となり、データの蓄積や生産者間のデータの比較・分析が容易になったことで、各地域の勉強会組織の立ち上げが進むとともに、指導員の環境制御技術に対する指導力の向上に寄与している。
- (3) データの共有、分析が進んだことにより、施設園芸における生産者のデータ活用に関する意識が大きく変化するとともに、単収などの生産性の飛躍的な向上に寄与している。特に、いちごにおいては単収向上並びに産地の維持拡大に大きく貢献している。